

総計審第1号

令和7年(2025年)1月9日

小田原市長 加藤 憲一 様

小田原市総合計画審議会

会長 出石 稔



小田原市基本構想行政案について(答申)

令和6年(2024年)10月21日付け企第1919号で諮問のあった小田原市基本構想行政案について、慎重に審議を重ねた結果、別紙のとおり答申します。

答 申

今般諮問された小田原市基本構想行政案について議論した結果、全体としておおむね妥当であると判断したため、その旨を答申する。なお、個別事項についての審議会の意見を次のとおり示すので、市で検討を進め、適切に小田原市基本構想案に反映されたい。

小田原市基本構想全般

- 小田原市基本構想は、おおむね 20 年先を見据え、「誰もが笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと小田原」という将来都市像とその実現に向けた道筋を掲げた小田原市のまちづくりにおける指針であることから、全ての分野が網羅されており、その目的が市民を第一に考えていること、誰にとってもわかりやすい表現であることを心掛けた修正をされたい。
- 抽象的な表現となっている部分について、可能な限り具体でわかりやすい表現とすることで、地方自治体が目指すまちづくりの方向性を正確に市民と共有するという総合計画の基本構想としての本来の目的が達成できるよう努めていただきたい。また、これからの小田原を担っていく世代へ向けて発展的な方向性を提案する基本構想とされたい。
- 国や県など多様な主体と小田原市の関係性についても示したうえで、小田原が目指す方向性を示されたい。
- 総合計画と「まち・ひと・しごと創生法」に基づき策定される地方版総合戦略の関係については、各自治体によって異なることから、小田原市においてもその関係性を整理されたい。

1 時代と社会についての認識

- おおむね 20 年先を見据えることについては記載されているものの、目標年次の考え方は示されていない。明確な目標年次を定めないのであれば、その旨を加筆されたい。
- 平成 12 年の地方分権一括法の施行により、多くの権限が地方自治体に委ねられている。このことをしっかり認識したうえで、まちづくりの方向性を示そうとしている姿勢は評価できる。

2 小田原の歩み～可能性と課題～

- 小田原の良さに触れるとともに、小田原が未来に向かって進んでいく姿とその可能性についての言及も検討されたい。

3 まちづくりの理念と将来都市像

- 基本構想という性質上、個別具体の施策について触れないことの意図は理解するが、小田原が進むべき方向性が誰にとっても理解することができ、市民とともに将来都市像を実現していくことを考慮した際には、抽象的ではなく可能な限り具体的な表現とすることに努め、誰もがイメージしやすい将来都市像となるよう加筆を検討されたい。
- 冒頭で「人口減少や人口構造の変化が国全体で確実に進んでいくという現実を正面から受け止め」とあり、国全体の人口減少や少子高齢化についての言及があるが、小田原市の目標人口について言及されていない。目標人口を定めないのであれば、その旨を明確に言及すべきである。
- 様々な現場における人手不足の解消など、小田原で暮らす人々が何を求めているのかを的確に捉え、そのニーズに応えることのできる基本構想とすべきである。
- まちづくりの理念で示している「地域自給圏」については、自給すべき対象や目標を達成した際の姿、外部との関係性などについても言及し、

この概念がどういったものであるのか、何をすることが求められているのかを明確にされたい。その際、読み手によって異なる解釈とならない表現とされたい。

- 市民一人ひとりの幸せや地域社会の真の豊かさを希求することが大切としている中、そのための手段が「地域自給圏」の実現のみでは、閉鎖的で、市民の選択肢を狭めている印象を受けるため、市民一人ひとりの多様な選択が尊重されるような表現とされたい。
- 「地域自給圏」と経済団体・地域経済との関係が不明瞭であり、市外での経済活動を行わないとも解釈できる。地域内外に関わらず様々なノウハウを得ながら、この地域の経済を発展させていくということを考えると、外とのつながりは非常に重要である。また観光産業は外需獲得における重要な産業であることから、「地域自給圏」における、市域外の事業者や市外在住者等との関係性について明確にされたい。

4 まちづくりの目標

- 「3 まちづくりの理念と将来都市像」において示されている、小田原が持つ5つの力と行政の力の内容やそれぞれが持つ役割を明示し、まちづくりの目標との関係性について明記されたい。
- まちづくりの目標においては、その名称のみでこういった取組を実施していくのか、その内容が明確となるような表現とされたい。

（1）いのちを大切に作る小田原

- 「3 まちづくりの理念と将来都市像」において、『いのち』を支えていくために必要な要素は、可能な限り地域の中で整え、」とあり、それを実現するためにまちづくりの目標を掲げている。まちづくりの目標の1つが「いのちを大切に作る」となると、「いのち」という言葉はすべての目標に関連する上位概念的な意味があり、上位概念との整理ができていないように感じる。基本構想の中に記載のある「いのち」という言葉の意味が正しく表現されるよう整理されたい。

（２）自然環境の恵みがあふれる小田原

- 意見はなし。

（３）未来を拓く「人」が育ち、地域の絆が結ばれる小田原

- 「人」はどの分野でも大事なテーマとなっていることから、子どもたちの育ちに加え、人材育成の観点についても言及されたい。また、「未来を拓く人」について、文中で書かれている内容と目標がどう繋がるのかを明確化されたい。

（４）地域経済が好循環し、多彩な資源が花開く小田原

- サービス産業や新たな産業の視点、ＡＩを含めた新たなテクノロジーについても補記されたい。また、「豊かな資源」という表現では、緑や自然由来の資源という印象を受けるため、人間が積み重ねてきた文化やテクノロジーなどもあることがわかるような表現とされたい。

（５）安心して暮らすことができる小田原

- 公共インフラ整備などのハード事業に関する内容だけでなく、これまでに小田原市が取り組んできた市民参画や市民主体のまちづくりといった事業の推進手法に関する内容についても補記されたい。